

【教育目標】「創造性豊かで頼もしい人づくり」

- 【めざす児童像】①お互いに学び合う子【知】
 ②やさしく助け合う子【徳】
 ③健康で命を大切に作る子【体】
 ④地域を大切にし 礼儀正しい子【郷土愛】

- 【目指す学校像】①子どもが主体的に活動できる学校
 ②学力が向上する学校
 ③職員、児童ともに協働できる学校
 ④地域とともに歩む学校

| 評価の項目 | 具体的な取組 | 主担当 | ○評価の観点 | | 学校自己評価 | | 取組及び課題解決に向けた改善策 | 学校関係者評価 |
|-------------------|--|---------------|---|-------------------------|--------|--|-----------------|---------|
| | | | □達成度評価基準 | | 中間 | 最終 | | 改善策の適切さ |
| 主体的に活動しようとする姿勢づくり | ○あいさつ、あきらめない、後片付け(3あ運動)・生活年間目標を通した集団づくり ・生徒指導の三機能をいかした諸活動の推進 ・情報共有と各アンケートをいかした迅速対応(生徒指導便り 職員朝終礼の活用) ・外部機関との連携 ・発達支援室・ケース会議 ・キャリア教育の推進 | 生徒指導 | ○児童がお互いに助け合い、協力して活動する場をつくとともに、友だちとの温かな関係づくりにつながっている。 □児童アンケート 「安心して学校で生活している」と答えた児童の割合 A:85%以上 B:80%以上 C:80%未満 | 低95%A 中87%A 高97%A | | 今後は、これまでに効果のあった取り組みを粘り強く継続していく。また、年に3回児童全員に担任が個人面談を実施し、子ども達の気持ちをつかみ、寄り添ったうえで、教育活動を行っていきたい。 | A…6名 | |
| | ○生活リズムの改善に向けて ・ぐっすりナイト ○SNS機器の利用についての指導 ・インターネットに関する学習 | 向上生活力 生活部会 | ○児童が望ましい生活習慣を意識し、生活を改善させている。 □保護者アンケート 就寝時間を守っている児童の割合(低学年9時半、中学年10時、高学年10時半) A:80%以上 B:70%以上 C:70%未満 | 低71%B 中70%B 高82%A | | 各学年に応じた指導内容を工夫して全学年で睡眠・SNS等の指導を実施していく。また、ぐっすりナイトの結果を保護者に知らせ、学校と家庭が同じ方向で支援できるようにする。 | A…5名 B…1名 | |
| | ○児童の企画運営による特別活動 ・全校集会・運動会・各委員会の活動 ○成果の「見える化」による自己肯定感の高揚 ・写真や動画などのふり返し | 特別活動 | ○児童が自分たちで決め、協力して活動する場をつくり、それが、満足感や達成感につながっている。 □児童アンケート 「学級や学校をよりよくするために自分たちで考えて行動している」と答えた児童の割合 A:80%以上 B:70%以上 C:70%未満 | 低87%A 中85%A 高88%A | | 「見える化」の継続として、より子どもたちが輝いている場面を価値づけし、言葉や画像、映像を記録として残す。また、全校集会や異学年交流など、児童が自ら企画し、運営できる場を教師がしかけ、支援できるようにしていく。最後に、各教科と連携した活動を行い、地域の人材資源、自然資源、伝統資源などあらゆる財を活用する。 | A…6名 | |
| | ○自己の生き方について考えを深めるための道徳の授業力の向上 ・道徳授業の公開 ・効果的なゲストティチャー(保護者)の活用 | 道徳推進 | ○児童が自分自身の生き方について深く考えようとしている。 □児童アンケート 重点項目についてふり返し、肯定的な意見の児童の割合 A:80%以上 B:70%以上 C:70%未満 | 低93%A 中88%B 高76%B | | 低学年では、正直で素直な態度が養われていることがわかる。そのことを価値付けし、さらに成長できるようにしていく。中学年では誰に対しても同じ態度で接することについて話し合い、深く理解できるようにしていく。高学年は今後、自分の役割、個人の力を合わせチームとして取り組んでこそ達成できる様々な活動に積極的に参加できるようにしていく。 | A…6名 | |

| | | | | | | | |
|----------|--|--------|---|---|--|--|----------------|
| 学力の向上 | <p>○ペアやグループで考えを広げたり深めたりする活動 ○児童が自分の考えをもつために「Let's Try」を使う</p> | 研究 | <p>○友だちとの関わりから考えを深めている。 ○児童は自分の考えを持って授業に臨んでいる。</p> <p>□児童アンケート 「友だちと話合って、考えが深まったり、分からなかったことがわかるようになったりした。」 □学力向上プラン児童意識アンケート 「Let's Try」を使って、自分の考えをもつことができた。」 A:80%以上 B:70%以上 C:70%未満</p> | <p>低86%A 中90%A 高91%A</p> <p>低87%A 中86%A 高81%A</p> | | <p>ペアやグループの話し合いを単元計画の中に位置づけ、取り組むことができた。話し合いの質を高めるために、教師は何を話し合わせるのか、具体的なシミュレーションを行い、授業に臨むようにする。また、児童は友達が話したことに言葉を返すことができるようにする。</p> <p>既習を活かしながら、自分の力で考えを書くことができる児童の割合は増えてきている。教師は、児童にどのような考えを書かせたいのかを明確にもち、それに合った「レッツトライ」を提示し、考えをもたせることで、その時間のゴールにむかう、より深い学びにつなげていく。</p> | A…6名 |
| 学力と体力の向上 | <p>○スタディマナーの徹底 ・目・耳・心で聴く姿勢 ・名前を呼ばれたら返事、発表3の声</p> | 学力向上部会 | <p>○名前を呼ばれたら返事をして、3の声で発表している。 □児童アンケート 「スタディマナーを守っている。」</p> | <p>低98%A 中90%A 高78%B</p> | | <p>スタディマナーについては、児童の自己評価と実態を適切にとらえて指導する。どのように取り組むか、教職員全体で共通理解し、徹底していく。</p> | A…6名 |
| | <p>○家庭学習の質的向上 ・予習レシピの活用 予習の指導</p> | 学力向上部会 | <p>○授業の予習をしている。 □児童アンケート 「週に1回は予習をしている。」</p> | <p>低74%B 中71%B 高66%C</p> | | <p>家庭学習については、予習指導のさらなる推進を図る。予習の仕方を学ぶ時間を確保し、実際にやることで予習のよさを実感させる。</p> | A…6名 |
| | <p>○「書く」活動の充実 ・条件に沿って、自分の考えを書く ・児童が推敲し、修正する。</p> | 学力向上部会 | <p>○条件に沿って自分の考えを書いている。推敲して、修正している。 □職員アンケート 「短作文を推敲し修正することを指導する。」 A:80%以上 B:70%以上 C:70%未満</p> | 100%A | | <p>「書く」活動については、推敲し、修正したものを教室に掲示することができた。今後は、推敲のレベルを学年に応じてあげていく。</p> | A…6名 |
| | <p>○柔軟性の向上 ・準備運動時の補強運動</p> | 体育担当 | <p>○日々の取り組みにより、児童の柔軟性が向上している。</p> <p>□各測定値 長座体前屈 前年度比+5cm A:5~6学級 B:3~4学級 C:0~2学級</p> | 2学級 C | | <p>補強運動の継続を行っていく。記録の伸びはみられるので、今後更に伸ばせるようにしていきたい。</p> <p>オリパラ教育の推進を進めることで、運動との多様な関わりをもたせる。</p> | A…5名 B…1名 |
| 職員の協働 | <p>○職員の能力の開発や人材育成 ・若手育成プログラム ・研修をいかした校内OJT ・各校外研修の還元</p> | 管理 | <p>○校内研修が適切に行われ、各部会や推進委員会が、組織的な人材育成の視点で行われている。</p> <p>□職員の意識調査 「参画意識をもって業務を遂行している」 教員の割合 A:80%以上 B:60%以上 C:60%未満</p> | 92% A | | <p>生徒指導に関することや模擬授業などは、タイムリーな研修として指導にいかすことができた。毎回本校の教員を講師に計画を立てているが、準備が整わず計画通りにいかないことがある。次回からは、講座の最後に次回予告をして、準備をしてもらうことにする。</p> | A…5名 無記名…1名 |

| | | | | | | | |
|-------|---|---|---|---|-----------------------------|---|--------------|
| 体制の確立 | <input type="checkbox"/> 教職員の働き方に関する意識の改革 <ul style="list-style-type: none"> ・定時退庁日の設定 ・勤務終了時刻の設定 ・教職員の勤務状況の把握と指導助言 | 二職 | <input type="checkbox"/> 職員は終了時刻を意識して計画的に業務を進めている。 <input type="checkbox"/> 職員の意識調査と勤務実態 「業務の効率化を意識し、時間外勤務の削減を心がけている」 100% 時間外勤務時間が月80時間以上の教員数の昨年度との比較 A:50%未満 B:80%未満 C:80%以上 | A | | <p>超過勤務にならないように声掛けはしているが、まだまだ改善が必要である。超過勤務になる職員は固定化してきている。今後は業務の優先順位を考えて計画的に進めること、場合によっては業務の割り振りを見直すなどして改善を図っていく。</p> | A…5名 B…1名 |
| | 地域連携と貢献 | <input type="checkbox"/> 子どもの様子をタイムリーに配信 <ul style="list-style-type: none"> ・学校HPの更新 ・月2回以上の学級便り | 情報担当 | <input type="checkbox"/> 学級だより発行数 月2回以上学級だよりを発行した学級の割合 A:90%以上 B:80%以上 C:80%未満 | 95% A | <p>昨年度と同じ時期と比べると、2倍以上の更新回数である。しかし、HP更新には、学年によって偏りがみられる。今後は、学級だよりやHPの更新回数を調べて、毎月中旬に声掛けをする。</p> | A…6名 |
| | | | | <input type="checkbox"/> HP更新回数と閲覧数 全学級で月20回更新 | 更新回数 計152回 8/18 現在 | | A…6名 |
| | <input type="checkbox"/> 中学校との連携強化 <ul style="list-style-type: none"> ・外国語活動 ・計画訪問 ・小中連携会議 | 各主任 | <input type="checkbox"/> 中学校との情報交換が計画的に実施されている。 <input type="checkbox"/> 職員アンケート 「生徒指導、学習指導等の情報共有が定期的に行われている」 A:80%以上 B:60%以上 C:60%未満 | | | <p>感染症予防対策を踏まえ、取り組みの情報交換や、交流が実施されなかった。今後は、中1プロブレムなどを踏まえて、中学校と、児童の情報交換を進めていきたい。リモート会議などで交流ができることを探り、取り組んでいきたい。</p> | A…5名 B…1名 |